



ガ マ

自然解説員

あいざわ あきひと
相澤 章仁

みなさんは『ガマ』という植物を知っているでしょうか？川辺などの^{しづち}湿地に生える植物で、夏から秋にかけてフランクフルトのような穂をつける植物、と言うとうなずいてくれる方も多いでしょう。このガマという植物、あれこれ調べてみると人間の文化と深〜く関わりあったエピソードがいくつも出てきて、非常に興味深い植物であることがわかります。

ガマは漢字で『蒲』

ガマは漢字で『蒲』と書きますが、どこかで見たことのある字ではないでしょうか？少しお腹のすいている人は『うなぎの^{かばやし}蒲焼』や『蒲^{かまぼこ}鉾』を思いつくかもしれません。『蒲焼』は昔はうなぎの身を開かずに、串で縦に突き通してガマの穂のような形で焼いたためにそう呼ばれるようになったものです。蒲鉾も昔は竹輪のように串の周りに魚のすり身を巻いて焼いていたので、その形からガマの穂を連想してつけた名前です。これらの漢字から、昔からガマが身近な植物として人々に^{にんしき}認識されていたことがよくわかります。



(ガマ)

変わったところでは『蒲^{かまどと}魚』という言葉もあります。これは「知っているのに知らないふりをする」という意味の言葉ですが、江戸時代に女性が『蒲鉾は魚から^{かまぼこ とと}』

できているの?』と本当は知っているのに、上品で何も知らないふりをして（要するに、かわい子ぶって）男の人をだましたことが語源のようです。

少し話が脱線しましたが、もうひとつ、注目すべき言葉に『蒲団』という漢字があります。ここにはなぜガマの字が使われているのでしょうか？これはガマの葉を編んでお坊さんが座る円い敷物を作ったということが語源のようです。団という字はまるい形を意味するようなので、『ガマ』の『まる』で『蒲団』。これは広辞苑に書いてある説明なのですが、一般には少し違った説もあるようです。それはガマの穂綿で蒲団を作ったという説です。ガマの穂は秋口になると熟して綿毛をつけた数十万個の種子となり、裏返って爆発したようになってそれらを飛ばしていきます。これが穂綿で、その綿毛を集めて作るため『蒲団』という漢字であるということなのです。実際にガマの穂綿を使って蒲団を作ったという記述はなかなかないのですが…

いなばの白うさぎ『蒲黄』

ガマが出てくる有名な神話に『いなばの白うさぎ』があります。毛をむしり取られ、痛がっているうさぎに対し大国主の命という神様が『ガマの蒲黄（花粉）を撒き散らしてその上に寝転がりなさい』と教え、それによってうさぎが助かるという話です。ガマの花粉は蒲黄という漢方薬として使われ、血を止める作用があるのです。これもいつの間にか少し違う話となり『ガマの穂綿の上で寝転びなさい』と言われたと解釈している人が多く、『大黒様』という唱歌でも『蒲の穂綿にくるまれば…』と誤解して歌われているようです。

真偽の程は別として、ガマの穂綿が飛び散る様は人々にとって非常に印象深いものであることが伝わってきます。ガマの穂の蒲団づくり、挑戦してみたいかがでしょうか？



(ガマの穂綿)

*語源などは広辞苑第三版（岩波書店）を用いて調べました。

シクラメンの手入れ（開花中）

みどりの相談員

こばやし きよじ
小林 喜代次

○シクラメンは初冬から春にかけて長期間にわたって開花する鉢花です。
系統や種類も多く、鉢も普通鉢と底面給水鉢の二種類があり、よく手入れを
すると長く楽しむことができます。

○置き場（温度管理）

温度が最も下がる明け方でも最低温度8～10℃くらいは維持し、日中の温室は
20℃くらいに温度管理をします。日光の好きな花なので、昼間はガラス越しの
日光に当て、暖かい日はできるだけ戸外の日光に当てます。

○鉢まわし

葉に日光が平均的に当たるように鉢回しをします。

○水やり

鉢の表土が乾き始めたら（葉や花がいくらかしなやかになったら）たっぷりと水
やりをします。底面給水鉢で育てているときは、月1～2回鉢土の上から水やり
をします。

○追肥は忘れずに

つぎつぎに花が咲くように栄養を補給します。月1～2回
リン酸分の多い液体肥料を与えます。（1000倍液くらい）

○花がら摘み

花色があせたら早めに花がらのもとから抜き取ります。

○枯れ葉とり

黄色の葉、枯れ葉は取り除きます。

○病害虫防除

特に灰色かび病の発生に注意します。（花がら摘み、枯れ葉とりは早めに、球根
や株もとの湿気に気をつけます）

発病のときは薬剤散布を早めに（ベンレートなど）



（シクラメン）

草原の鳥「セッカ」



(セッカ)

日暮れが早くなり耕地に幾筋もの野焼きの煙が見られる頃になりますと、北国で繁殖を終えて戻ってきた冬鳥も加わって「21世紀の森と広場」や近隣の地域でも一年で一番多くの野鳥が見られる季節になります。

昨年は鳥の種類、数ともに少なく淋しい年でしたが、本年は21世紀の森と広場ではすでにアトリ科の

「マヒワ」「シメ」「ベニマシコ」

ホオジロ科の「クロジ」「ミヤマオオジロ」キツツキ科の「アカゲラ」、サギ科の希少種「サンカノゴイ」「ヨシゴイ」等が見られています。

☆セッカ、スズメ目ウグイス科 12.5 cm～13 cm 溜鳥・漂鳥、生息分布は広くアジア南東部、オーストラリア北部、南ヨーロッパ、アフリカ全域。日本では北海道を除く各地。雌雄同色、夏羽根で頭が黒褐色、体の上面は黄褐色で黒の縦斑があり、尾は黒褐色で黒い帯になり先端は白く扇状に開く。体の下面は淡黄褐色、冬羽根は頭が黄褐色に変わり黒い縦斑が目立つ。

繁殖の時期は6月～8月で雄はヒッヒッと鳴きながら上昇して、陸上競技「三段飛び」のアスリートの様に深い波形の飛行から草地に急降する「さえずり飛翔」を繰り返します。また雄は縄張り内に上部の狭い壺形の巣を複数作って雌を引き入れて一夫多妻の繁殖をする個体が多い。希にその年に生まれた雌が繁殖した事もあります。

「セッカ」は松戸市内でも江戸川の河川敷や他の数ヶ所でも繁殖しています。非繁殖期には冬枯れのヨシ原や草原の中で昆虫類、クモを捕食しながら移動するので殆ど姿を見せる事がありません。同じ場所で越冬しているホオジロ科三種の危険を感じての飛び去り方を比較しますと次のとおりです。

・オオジュリン

16 cm^{りゅうちょう ひょうちょう}留鳥、漂鳥、ヨシ原の上を飛んで^{きゅうかくど}急角度でまたヨシ原に飛び込む。

・アオジ

16 cm留鳥、漂鳥ヨシ原をかすめてすぐに草地の中に飛び込む。

・カシラダカ

15 cm^{ていぼく}冬鳥ハラハラと少し飛んで近くの低木で様子を見る。

・セッカ

12.5~13 cm留鳥、漂鳥、ヨシ原の上には出ず、低く飛んで草地などに姿を消す。



(オオセッカ)

^{かんそうか}乾燥化が抑えられて、^{おき}植生と^{しよせい}湿地の^{しっち}状態が良く^{じょうだい}保たれている場所です。

ヨシ原の乾燥化など生息環境の変化が起きれば急ぐに反応して去ってしまいます。その反面、繁殖期の6~8月は大雨の降る時があり、水位が上昇して地上に近いヨシやカヤツリグサ類の茎に作った巣が冠水して繁殖に失敗する事もあります。多くの巣は風が良く通る場所を選んで作っています。雄の「さえずり飛翔」は縄張り付近をジュークジュークと鳴きながら飛び上がり放物線を描いてヨシの中に舞い降ります。囀りはヨシの先端では少なく^{なかほど}中程の茎が多い。

同じヨシ原で繁殖している他の三種の^{※3}ソングポストの比較。

繁殖期での非常に目立つディスプレイ飛行とは対照的で越冬期にはほとんど姿を現さないのは「オオジュリン」も同じです。

☆オオセッカ^{ぜつめつ きくしゅ}絶滅危惧種1B類(EN)スズメ目ウグイス科 13 cm留鳥、漂鳥、生息分布、ロシア^{きょくとう}極東、中国東北部、日本。世界的にも非常に限られた地域の^{きょくちてき}極地的な場所でわずかに^{せいそく}生息している^{せしよしゅ}希少種です。日本では青森県の^{おがわらこ}小川原湖周辺と、千葉、茨城の両県に接する利根川の^{かりゅういき}下流域が主な繁殖地です。近年になって利根川の^{ちゅうりゅういき}中流域の数ヶ所でも少数が繁殖する様になりました。この「オオセッカ」の^{せいそくかんきょう}生息環境の^{きょうつうてん}共通点は^{ちけいてき}地形的に或いは大雨等によってヨシ原の



(ヨシキリ)

・オオヨシキリ

18.5 cmウグイス科の夏鳥、ヨシや低木の目立つ場所。

・コヨシキリ

13.5 cmウグイス科夏鳥、枯れたヨシの先や他の目立った場所。

・コジュウリン

14.5 cmオオジロ科留鳥 漂鳥、ヨシの先や他の目立った場所。

・オオセッカ

13 cmウグイス科の留鳥 漂鳥、ヨシの先端は少なく中程の茎が多い。

ウグイス科の鳥は良く似た種が多いのですが、繁殖期の雄が囀る声さえずが違うのが特徴であり識別ポイントにもなります。「セッカ、オオセッカ」共に開けた河川敷しきべつの湿地や草地等で繁殖していますが、「セッカ」は草地が主で「オオセッカ」は湿った下草の生えたヨシ原で繁殖します。

○用語解説○

※1 留鳥：年間を通して同じ場所に生息し、季節による移動をしない鳥。

※2 漂鳥：暑さ、寒さを避けるため、夏は山地、冬は平地、と言うように繁殖地と越冬地を区別している鳥。

※3 ソングポスト：小鳥がさえずるときにとまる所。杭くいの上や枯れ枝の先など。



みどりの相談室



パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738
ハナミツバチ



21世紀の森と広場 12・1月のイベント



講座名	日時	定員	費用	講師	受付開始日
森の実りと紅葉の観察会	12月1日(土) 10:00~12:00	20名	無料	森林インストラクター 國安哲郎 氏	11月15日~
21世紀の森と広場の 紅葉を撮ろう	12月2日(日) 10:00~12:00	20名	無料	日本アマチュア 映像作家連盟理事 内田一夫 氏	11月15日~
冬から春へ楽しむ ハンギングバスケット	12月2日(日) 13:30~15:30	25名	2,000円	ガーデン コーディネーター 杉田佳子 氏	11月15日~
楽しく作る~クリスマスから お正月までお祝いするかわいい 寄せ植え作り~	12月8日(土) 13:30~15:00	24名	1,000円	みどりの相談員 丸尾三恵子 氏	11月15日~
ミニ門松作り	12月15日(土) 13:30~15:30	20名	500円	流山高校教諭 小松直木 氏	11月15日~
バードウォッチング (雨天時は観察舎)	12月16日(日) 10:00~11:30	25名	無料	自然解説員 直井宏 氏	11月15日~
バードウォッチング (雨天時は観察舎)	1月13日(日) 10:00~11:30	25名	無料	自然解説員 今村裕之 氏	12月15日~
バードウォッチング (雨天時は観察舎)	1月27日(日) 10:00~11:30	25名	無料	自然解説員 直井宏 氏	12月15日~

年末年始・休館(園)案内

施設名	電話番号	お休み
公園	047-346-0121	12月30日(日)~1月1日(火)
パークセンター	047-345-8900	12月28日(金)~1月4日(金)
自然観察舎	047-340-4140	12月28日(金)~1月4日(金)
アウトドアセンター	047-385-1815 047-384-2234	12月26日(水)~1月7日(月)
カフェテラス	047-347-5877	12月27日(木)~1月1日(火)
里の茶屋	047-347-6850	12月30日(日)~1月9日(水)
売店(わかば)	-	12月28日(金)~1月1日(火)
松戸市立博物館	047-384-8181	12月28日(金)~1月4日(金)
森のホール21	047-384-5050	12月29日(土)~1月3日(木)



しっち 湿地の観察会

自然観察舎では自然解説員と一緒に「自然生態園」の木道を歩く観察会を実施しています。費用は無料です。

実施日	土曜日・日曜日・祝日
実施時間	10:00~10:30
	11:00~11:30
	13:30~14:00
	14:30~15:00
定員	25名(当日先着順受付)

※参加を希望される方は自然観察舎の受付までお申し込みください。

【電話】 047-340-4140

★ご来園の皆様へお願い★

安全、快適に公園を利用させていただくため、本公園ではいくつかのルールがあります。

自転車（キックボード含む）の乗り入れ、**ペット**の持ち込み、**テント**設営、**魚釣り**（たこ糸を使ったザリガニ釣りはOK、テグスは不可）などは禁止となっています。また**動植物の採集**や鳥などへ**エサをやる**こともかたくお断りしています。きれいな花もみんなで採ったら無くなってしまいますし、可愛^{かわい}いからと、人間の食べ物を鳥などにあげると自分でエサを捕^とれず、自然界で生きていけなくなり、かえってかわい^{かわい}そうなことになってしまいます。ルールを守って楽しく過ごして下さいね。

発行日：2012年12月1日
 発行：21世紀の森と広場パークセンター
 開館：9:00~16:30
 11月1日~2月末までは
 9:00~16:00
 月曜休館（祝日開館/翌日休館）
 〒270-2252 松戸市千駄堀269
 TEL 047-345-8900
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。



21世紀の森と広場シンボルキャラクター
ドンちゃん・グリちゃん